

第14週の発生動向(2007/4/2~2007/4/8)

1. 咽頭結膜熱については、上十三保健所管内において、新たに**警報**が出されています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、弘前保健所(第10週~)、むつ保健所管内(第49週~)において、**警報**が継続しています。
3. 水痘については、上十三保健所管内において、新たに**注意報**が出されています。
4. 伝染性紅斑については、むつ保健所管内において、第3週から**警報**が継続しています。
5. 感染性胃腸炎については、横ばい傾向にありますが、引き続き注意が必要です。
6. インフルエンザについては、先週に引き続き、県内すべての保健所管内において、**警報**、**注意報**のいずれかが発令されています。詳細については、[インフルエンザ情報](#)に掲載しています。

第14週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点
(72) インフルエンザ	357	25.50	272	18.13	248	17.71	91	13.00	365	40.56	132	22.00	1,465	22.54	-1207	24	12.00	333	27.75
(59) RSウイルス感染症	1	0.11					1	0.20		1	0.17		3	0.07	0			1	0.13
(60) 咽頭結膜熱			1	0.11	1	0.11			17	2.83	1	0.25	20	0.48	14				
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	19	2.11	29	3.22	5	0.56	2	0.40	4	0.67	10	2.50	69	1.64	-26	2	2.00	17	2.13
(62) 感染性胃腸炎	22	2.44	14	1.56	7	0.78	14	2.80	7	1.17	35	8.75	99	2.36	-21	3	3.00	19	2.38
(63) 水痘	7	0.78	10	1.11	9	1.00	1	0.20	32	5.33	3	0.75	62	1.48	22			7	0.88
(64) 手足口病	1	0.11							1	0.17			2	0.05	2			1	0.13
(65) 伝染性紅斑	1	0.11			4	0.44	5	1.00	3	0.50	17	4.25	30	0.71	1	1	1.00		
(66) 突発性発しん	5	0.56	2	0.22	5	0.56	1	0.20	4	0.67	1	0.25	18	0.43	-2			5	0.63
(67) 百日咳															0				
(68) 風しん															0				
(69) ヘルパンギーナ															-3				
(70) 麻しん(成人を除く)															-1				
(71) 流行性耳下腺炎	15	1.67	10	1.11	5	0.56	3	0.60	10	1.67	6	1.50	49	1.17	-20	2	2.00	13	1.63
(73) 急性出血性結膜炎															0				
(74) 流行性角結膜炎	2	1.00	1	0.33	2	1.00	2	2.00					7	0.64	1			2	1.00
(82) マイコプラズマ肺炎					3	3.00					3	3.00	6	1.00	-2				

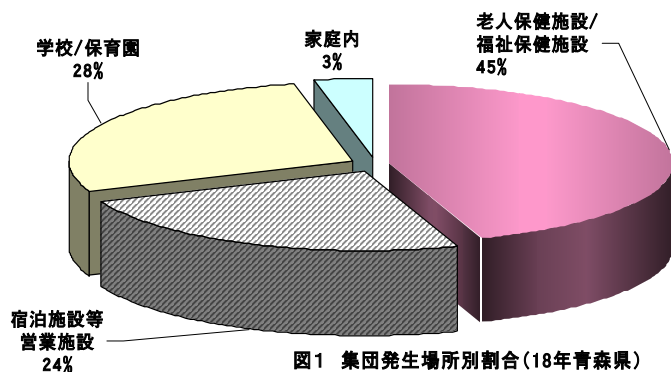
保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	12	8	4	2
合計	65	42	23	11

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (19年計には、今回届出された人数を含む)

(14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患) むつ保健所管内: 1人 (19年計: 2人)

感染症の窓 / ノロウイルス集団発生事例報告 (18年まとめ)



平成18年1月から12月までに、環境保健センターで検出されたノロウイルス集団発生事例数は29件でした。最も多い発生場所は老人及び福祉保健施設等で(図1)、保健所管内別では、弘前保健所管内が最も多く発生しました(図2)。月別集団発生事例数は、12月次いで5月及び11月が多い報告数となっています(図3)。第14週現在の感染性胃腸炎患者報告数は、横ばい状態にあるものの、**集団発生**につながることがあるので、注意が必要です。

